



高知大学 人文社会科学部教員

にしやに りゅうじ  
**西谷 龍二**

出身地：三重県

専門分野：日本語学、日本語史

趣味：読書、音楽、ラジオ鑑賞

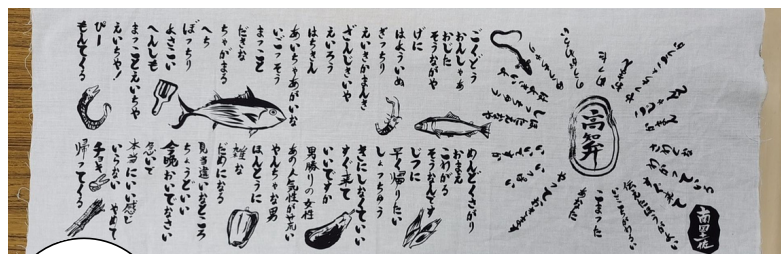
## 西谷先生の 専門分野は？

専門は日本語の文法の歴史、特に待遇表現を扱っています。具体的には敬語や人にものを頼むときの話し方などです。室町時代から近代の大阪・京都の話し言葉を反映するものを資料として研究しています。近代の時期だと、大阪・京都の話し言葉を反映すると考えられている上方落語を扱うことがあります。このほかに、大阪方言を使っている小説や劇なども扱います。自分が話す言葉が時間をかけて形成してきたのがわかると面白いですし、日本語の歴史を考える魅力もあります。例えば、近畿地方とそれを除く西日本で形は同じであるのに、意味の違う形式があります。諸説ありますが、約四百年前から分化し、今の方言になっているんですよ。そこが、とても面白いなと思います。

## 大学教員になった きっかけは？

大学教員になろうと思ったわけではなくて、大学院に行つてそのまま研究を続けようと思うと必然的に大学教員になるという選択肢になりました。なぜ大学院に進んだかというと、卒論を書いていた時の研究が面白くなってきて、

四回生の時に教員採用試験も受けてたんですが、研究を続けていきたいと思い、大学院を選びました。その後、運よく高知大に就職できました。



お気に入りの  
高知弁手ぬぐい！  
研究室前に  
あります！



## 人文社会科学部 の魅力とは？

他の学部に比べて他コースの授業を取りやすいところが魅力だと思います。自分が通っていた学校では、他学部の授業を取っても卒業要件の単位に含まれず、生かすことができなかったため、履修する気になれなかった（笑）。ただ高知大学の人文社会科学部は、他学部の授業を履修しても卒業時に単位認定されるため、履修しやすく、自分の興味を広げる機会が増えやすいと思います。

## ゼミで実施する 内容は？

三年生の前期のゼミでは、資料を基に日本語の歴史的变化を学ぶことを目的としています。自分自身で歴史的な変化に気づいてもらうために、二つの資料を比較して、どのように変化しているかを考えます。後期では、くずし字で書かれた江戸時代の版本を現代の日本語の表記に置き換え、現代語訳をします。それを通して、江戸時代の日本語を学ぶとともに、またそこから現代への変化を考えてもらうようにしています。

四年生のゼミでは、卒論の執筆を進めていきます。多くの人は生まれて初めて書くものなので、書き方等について学ぶとともに、各自が進めてきた内容や、現在の進捗状況を互いに発表し、議論を行います。

## 学部生や高知への 印象は？

人文社会科学部の子は真面目で素直な子が多いですが、演習とかの時に議論が盛り上がりにくい所もあって……基本は慣れなので、積極的に話して欲しいし、出来ると思います。

高知に来て、学生が高知方言や西日本の方言をたくさん使用していて、結構驚きました。方言を話すおじいちゃんおばあちゃんの方が多くいてくれるのも個人的にめちゃくちゃ面白いですね。研究者だから、方言を聞いた場合や、表現が全然違うなと感じた際にメモしたくなります（笑）。



## 編集後記

自分が興味のある学問を大学在学中に見つけ、それを教員という職業を通して探求され続けている。その探求心がやりがいにも直結しているとのことで、私たち大学生が一番憧れる将来像だと思った。

大学教員の方と専門に関わる分野以外で、これほど深く知ることができる機会は少ないため、今回の西谷先生へのインタビューはとても貴重な時間であった。

西谷先生は最後に、好きなものを否定しないことの大切さについて熱く語っていた。好きなものを仕事とした先生の話忘れずに、私たちも相手の好きなものを否定せず、共に楽しめるような関係を築いていきたい。

人文社会科学部四年谷川大治

三年秋光咲希

三年西村虎太郎

二年徳成美咲

二年橋本吉功